

大会名：第48回名寄支部南ブロック新人バスケットボール選手権大会
 兼 第18回北海道高等学校新人バスケットボール大会名寄地区予選会
 平成17年12月12日 9時30分 会場：美深町体育館
 高校男子 決勝 戦評

名寄光凌	59	16		13	49	名寄高校
		12		14		
		14		12		
		17		10		

《第1ピリオド》

スタートメンバーは名寄光凌 山田 山科 北平 内村 富樫、対する名寄高校は 柴田 田口 三浦 齋藤 神田である。光凌はスリークォーターからのマンツーマンプレス、名高はハーフコートのマンツーマンでスタートした。

立ち上がり名高 三浦のジャンプシュートで先取点の奪うが、すかさず光凌 山科も入れ返す。光凌はいい位置でボールをつなぎ、ファーストブレイクを出す。しかし、シュートミスを連続させリズムを掴み切れない。名高は 柴田を中心にディフェンスリバウンドを確実に取り、光凌にセカンドチャンスを与えない。しかし、光凌は 山科 北平のスティールから得点を重ねる。ピリオド終了間際、名高 三浦のハーフラインから放ったシュートが決まり、16 - 13光凌リードで第1ピリオド終了。

《第2ピリオド》

開始早々名高は 田口の中距離シュート、 齋藤のドライブインで一気に逆転する。しかし、光凌 内村のブレイクからのシュートで再逆転。名高はディフェンスを頑張るものの、オフェンスではパスが回らず、シュートセレクションが悪く思うように得点できない。光凌は 山科からのロングパスでブレイクを出すが決定率が低く、主導権を握ることが出来ない。双方リズムを掴み切れないまま、28 - 27光凌リードで第2ピリオドを終了した。

《第3ピリオド》

光凌はディフェンスをオールコートに変え勝負に出る。ダブルチームでスティールするも、オフェンスでのミスでなかなか得点には繋がらない。しかし、 山科の積極的なジャンプシュートで得点する。シュートセレクションの悪い名高は得点が伸びない。しかし、 柴田のオフェンスリバウンドからのシュートで応戦する。42 - 39で第3ピリオドを終了する。

《第4ピリオド》

勝負を決めたい光凌は、 山科 富樫の合わせ、更に 内村、 北平のブレイクで一気に畳み掛け、この試合最大の得点差8点をつける。名高は 三浦の3Pで5点差にするも、光凌の勢いは止まらず、 北平のブレイク、スティールからの連続得点で一気に勝負をつける。名高もディフェンスをオールコートに変えるものの追いつくことは出来ず、59 - 49で名寄光凌高校が優勝を手にした。

戦評 柴田 題 寛